

第二期計画の策定検討に向けた基礎整理（素案）

【海域WGに係る主なモニタリング項目について】

No.	モニタリング項目	評価基準	遺産管理の努力による 評価基準達成の可能性	対応する評価項目	モニタリング項目と評価項目の 関係の妥当性	第1期計画期間中の モニタリング実績	次期計画での対応
			<選択肢> ●可能、△困難、×不可 能		<選択肢> ●適当、△再検討の余地、×不 適当		<選択肢> ●継続、△条件つき継続、×除 外
1	衛星リモートセン シングによる水 温・クロロフィル a の観測	【実施主体：検討中】 【評価指標：水温、クロロ フィル a】 ◆長期的に見たときの変動 幅を逸脱しているかどうか (基礎データとして他のモ ニタリング結果の評価にも 活用)		I. 特異な生態系の生産性が維持さ れていること。 IV. 遺産地域内海域における海洋生 態系の保全と持続的な水産資源利 用による安定的な漁業が両立され ていること。 VIII. 気候変動の影響もしくは影響の 予兆を早期に把握できること。		実施主体が決まっておらず、 未解析	
2	海洋観測ブイによ る水温の定点観測	【実施主体：環境省】 【評価指標：水温】 ◆基準なし（自然環境等 の変動を把握し、様々な施策 の検討の際の基礎的な情報 を収集するためのモニタリ ング）		I. 特異な生態系の生産性が維持さ れていること。 IV. 遺産地域内海域における海洋生 態系の保全と持続的な水産資源利 用による安定的な漁業が両立され ていること。 VIII. 気候変動の影響もしくは影響の 予兆を早期に把握できること。		・ウトロ沿岸域海洋観測ブイ による水温の定点観測 …毎年 ※R2 観測データなし ・羅臼沿岸域海洋観測ブイ による水温の定点観測 …毎年	
3	アザラシの生息状 況の調査	【実施主体：北海道】 【評価指標：来遊頭数】 ◆アザラシの保護管理に重 大な支障を生じさせないこ と（絶滅のおそれを生じさ せない）。		I. 特異な生態系の生産性が維持さ れていること。 III. 遺産登録時の生物多様性が維持 されていること。 IV. 遺産地域内海域における海洋生 態系の保全と持続的な水産資源利 用による安定的な漁業が両立され ていること。 VIII. 気候変動の影響もしくは影響の 予兆を早期に把握できること。		・陸上調査…H18、20 ・海上調査…H18 より隔年、 H30 まで ・航空機調査…H22、24、28 よ り隔年 ・無人ヘリ調査…H26 より隔 年	
4	海域の生物相、及 び、生息状況（浅海 域定期調査）	【実施主体：環境省】 【評価指標：生物相、生息 密度、分布】 ◆おおよそ登録時（or ベー スデータのある時点）の生 息状況・多様性が維持され ていること。		I. 特異な生態系の生産性が維持さ れていること。 II. 海洋生態系と陸上生態系の相互 関係が維持されていること。 III. 遺産登録時の生物多様性が維持 されていること。		・浅海域定期調査 H18～21、H29（夏・秋）、 R1（春） 10年に一度の頻度で実施	
5	浅海域における貝 類定量調査	【実施主体：環境省】 【評価指標：生息密度、種 組成】 ◆おおよそ登録時（or ベー スデータのある時点）の生 息状況・多様性が維持され ていること。		I. 特異な生態系の生産性が維持さ れていること。 II. 海洋生態系と陸上生態系の相互 関係が維持されていること。		・浅海域貝類定量調査 H18～20、H25、H29（夏・秋） R1（春） 5年に一度の頻度で実施	

No.	モニタリング項目	評価基準	遺産管理の努力による 評価基準達成の可能性	対応する評価項目	モニタリング項目と評価項目の 関係の妥当性	第1期計画期間中の モニタリング実績	次期計画での対応
			<選択肢> ●可能、△困難、×不可 能		<選択肢> ●適当、△再検討の余地、×不 適当		<選択肢> ●継続、△条件つき継続、×除 外
6	ケイマフリ、ウミ ネコ、オオセグロ カモメ、ウミウの 生息数、営巣地分 布と営巣数調査	【実施主体：環境省】 【評価指標：営巣数とコロ ニー数、特定コロニーにお ける急激な変動の有無】 ◆おおよそ登録時の営巣数 が維持されていること		II. 海洋生態系と陸上生態系の相互 関係が維持されていること。 III. 遺産登録時の生物多様性が維持 されていること。 IV. 遺産地域内海域における海洋生 態系の保全と持続的な水産資源利 用による安定的な漁業が両立され ていること。 VII. レクリエーション利用等の人為 的活動と自然環境保全が両立され ていること。		・知床国立公園における海鳥 の分布調査（毎年） ・海鳥営巣経年（毎年）	
22	海ワシ類の越冬個 体数の調査	【実施主体：環境省】 【評価指標：海ワシ類の越 冬個体数】 ◆おおよそ登録時の生息状 況が維持されていること。		II. 海洋生態系と陸上生態系の相互 関係が維持されていること。		・海ワシ類飛来状況調査（毎 年）	
①	航空機、人工衛星 等による海水分布 状況観測	【実施主体：第一管区海上 保安部】 【評価指標：海水の分布状 況】 ◆基準なし（自然環境等 の変動を把握し、様々な施策 の検討の際の基礎的な情報 を収集するためのモニタリ ング）		I. 特異な生態系の生産性が維持さ れていること。 IV. 遺産地域内海域における海洋生 態系の保全と持続的な水産資源利 用による安定的な漁業が両立され ていること。 VIII. 気候変動の影響もしくは影響の 予兆を早期に把握できること。		・海洋概報（毎年） ・海水速報（毎年）	
②	アイスアルジーの 生物学的調査	【実施主体：東海大学、北 海道大学】 【評価指標：海水で覆われ た時期の海水内の基礎生産 生物量の把握】 ◆※データの蓄積がほとん どなく、現時点で評価基準 の設定が困難 動物プランクトン量も把握 しておくと、低次の食物連 鎖が推定できる。		I. 特異な生態系の生産性が維持さ れていること。 IV. 遺産地域内海域における海洋生 態系の保全と持続的な水産資源利 用による安定的な漁業が両立され ていること。		未実施	

No.	モニタリング項目	評価基準	遺産管理の努力による 評価基準達成の可能性	対応する評価項目	モニタリング項目と評価項目の 関係の妥当性	第1期計画期間中の モニタリング実績	次期計画での対応
			<選択肢> ●可能、△困難、×不可 能		<選択肢> ●適当、△再検討の余地、×不 適当		<選択肢> ●継続、△条件つき継続、×除 外
③	「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握	【実施主体：北海道水産林務部】 【評価指標：漁獲量】 ◆基準なし（自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング）		I. 特異な生態系の生産性が維持されていること。 III. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。 IV. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること。		・水産現勢（毎年）	
④	スケトウダラの資源状態の把握と評価（TAC設定に係る調査）	【実施主体：水産庁】 【評価指標：資源水準・動向】 ◆おおよそ登録時の資源状態を下回らないこと。		I. 特異な生態系の生産性が維持されていること。 IV. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること。		・我が国周辺水域の資源評価（毎年）	
⑤	スケトウダラ産卵量調査	【実施主体】羅臼漁業協同組合、釧路水産試験場 【評価指標：卵分布量】 ◆基準なし（自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング）		I. 特異な生態系の生産性が維持されていること。 IV. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること。		・羅臼海峡におけるスケトウダラ産卵量指数の経年変化（毎年）	
⑥	トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性	【実施主体：北海道区水産研究所等】 【評価指標：来遊頭数】 ◆基準なし（自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング）		I. 特異な生態系の生産性が維持されていること。 IV. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること。 VIII. 気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること。		毎年実施	
⑦	トドの被害実態調査	【実施主体：北海道】 【評価指標：被害実態】 ◆基準なし（自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング）		IV. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること。		毎年実施	

No.	モニタリング項目	評価基準	遺産管理の努力による 評価基準達成の可能性	対応する評価項目	モニタリング項目と評価項目の 関係の妥当性	第1期計画期間中の モニタリング実績	次期計画での対応
			<選択肢> ●可能、△困難、×不可 能		<選択肢> ●適当、△再検討の余地、×不 適当		<選択肢> ●継続、△条件つき継続、×除 外
⑧	オジロワシ営巣地 における繁殖の成 否、及び、巣立ち幼 鳥数のモニタリン グ	【実施主体：オジロワシモ ニタリング調査グループ】 【評価指標：つがい数、繁 殖成功率、生産力（つがい 当たり巣立ち幼鳥数）】 ◆おおよそ登録時のつがい 数、繁殖成功率、生産力が 維持されていること。		Ⅱ. 海洋生態系と陸上生態系の相互 関係が維持されていること。 Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持 されていること。		・オジロワシ繁殖モニタリン グ調査（毎年）	
⑨	全道での海ワシ類 の越冬個体数の調 査	【実施主体：合同調査グル ープ】 【評価指標：海ワシ類の越 冬環境収容力】 ◆参考資料（基準なし）		Ⅱ. 海洋生態系と陸上生態系の相互 関係が維持されていること。		・オオワシ・オジロワシ一斉 調査（毎年）	
⑩	海水中の石油、カ ドミウム、水銀な どの分析	【実施主体：海上保安庁海 洋情報部】 【評価指標：表面海水及び 海底堆積部の石油、PCB、重 金属等の汚染物質濃度】 ◆基準値以下の濃度である こと。		Ⅳ. 遺産地域内海域における海洋生 態系の保全と持続的な水産資源利 用による安定的な漁業が両立され ていること。		・海洋汚染調査（毎年）	
⑪	シャチの生息状況 の調査	【実施主体：Uni-HORP(北海 道シャチ研究大学連合)】 【評価指標：識別個体数】 ◆検討中		Ⅱ. 海洋生態系と陸上生態系の相互 関係が維持されていること。 Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持 されていること。 Ⅳ. 遺産地域内海域における海洋生 態系の保全と持続的な水産資源利 用による安定的な漁業が両立され ていること。 Ⅶ. レクリエーション利用等の人為 的活動と自然環境保全が両立され ていること。		・H22～30（隔年）	